

横須賀・三浦地区の発達障害相談・支援センターKANAC(カナック)が
事業終了。今後は市町村・事業所等のバックアップに専念！

支援センター 凧 [社会福祉法人 湘南の凧]

横須賀のバリアフリー子育て情報局
sukasuka-ippo
http://www.sukasuka-ippo.com
発行責任者 / 五本木愛 編集 / 竹島



わたしたちがKANAC(以下カナック)を知ったのは2015年、ひまわり園の保護者役員会の代表として参加した教育分科会でのことです。特別ゲストとして参加したカナックの発達障害相談機関としての役割のほか、中学校で発達障害についての講演を行うなどの活動に注目し、園報でも紹介。しかし、この度、支援体制を整備する神奈川県計画により、そのカナックが事業終了、新しく『支援センター凧』として主に市町村・事業所等のバックアップに専念することになったことを知り、お話を聞いてきました。

■KANAC(カナック)のここが良かった！ [事業終了]

横須賀市・逗子市・鎌倉市・三浦市・葉山町に住んでいる自閉症・アスペルガー症候群などの広汎性発達障害、注意欠陥 / 多動性障害・学習障害などの発達障害を有する人やその家族などが主な利用で、特に19歳以上の大人の相談(会社や日常生活がうまくいかないなど)が多く寄せられ、診断やサポートなどを行っていました。その他、中学校などで発達障害についての講演などを行うなど発達障害への理解を広げる活動のほか、当事者の集まりを主催し当事者同士の活発な交流を支援していました。

■どうしてカナックがなくなるの？

本来、カナックのような支援センターが担うべき大きな役割は個別の発達障害相談と市町村や事業所等のバックアップの2点。

しかし、近年、個別相談の件数が増加したことで、市町村や事業所等のバックアップの役割が十分に果たされていないことが全国的にも問題になってきました。そのため、平成26年度から国として地域生活支援事業のメニューに「発達障害者支援地域支援マネージャー」を加え、地域の支援体制を整備する取り組みが進められてきました。そのモデルケースである他県での成功例が報告されたことを受けて、神奈川県でも28年度から発達障害者地域支援マネージャーを配置して、市町村や事業所などへの支援を充実させる体制を整備することになりました。

こうした一連の流れで、これまで個別相談を受けていた対⇄個のカナックは事業終了。今後は、『支援センター凧』として、対⇄行政の支援(具体的には発達障害者を支援している福祉機関や学校、行政等への機関支援)に注力することになりました。

■カナック業務終了後、利用者はどこへ？

このように地域で当事者の直接相談を受けてきたカナックが2016年3月をもって業務終了ということになりましたが、これまでの利用者はどうなったのか伺うと、利用者には経緯を説明し、了承を得ながら各地域の支援センターや事業所へ出向き、引き継ぎを進めているとのことでした。(2016年4月現在)

■ちなみに対応が難しいケースというのは？

ボーダーの方の相談も多く、難しい手帳取得についてもあらゆる知識を振り絞って対応。その他、本人は自覚していないけど配偶者や家族が困って「旦那が発達障害なのでは!？」と相談するケースも。ご本人に説明しても検査を受けてくれない…。こうなると直接的な解決は難しいので、周囲の人が発達障害について理解し、その特性に合わせたアドバイスをしていくなど、間接的な支援が必要になります。問題行動の背景を知ることによって寛容になれたり、共同生活をする人のストレスを軽減できることもあるし、もちろん、うまくいかないこともあります。難しいですね。

■支援センター凧の基本情報

〒249-0005 神奈川県逗子市桜山 7-12-4
TEL / 046-870-5280 FAX / 046-873-5370
mail / rin_kobayashi@shounan-nagi.or.jp
詳しくはホームページで！
<http://www.shounan-nagi.or.jp>



■どうなる？横須賀・三浦地域の相談窓口

そして気になる今後の相談窓口は!?という、2016年6月までの期間は横須賀・三浦地域対象の相談専用電話が繋がりますが、以降は従前から政令市を除く全県域を対象に相談を受けていた『神奈川県発達障害支援センターかながわA』の相談専用電話に集約されることとなります。そして、『かながわA』の電話相談窓口で相談すれば、相談内容に応じて適切な相談機関や支援センターに支援をつなげてもらうなどができるということです。

横須賀・三浦地区の発達障害電話相談はこちら

TEL / 046-581-3717

月～金(祝日・年末年始を除く)
8:30～17:15

神奈川県発達障害支援センターかながわA

■横須賀でも開催してもらいたい！子どもに向けた講演会

カナックが逗子市の小・中学校で実際に行った発達障害についての講演会についての話は、障害児の親として、身を乗り出して聞きました。発達障害や自閉症とはどういう障害なのか、どういう感覚で日々生活しているのか、どのように物事を捉えているのかなど、発達障害についての正しい理解を若い年代に広げていくことで、いじめに発展するリスクを軽減する効果も期待できます。

この講演会について、逗子市ではカナックだけでなく教育委員会の教育研究所や社会福祉協議会も一緒になって企画。講演会の他にも、実際に発達障害の人が感じる戸惑いや焦る気持ちなどを疑似的に体験してもらう試みを、子どもたちや支援級の先生たちの研修で行っているとのこと。4年生ぐらいになると、講演会や疑似体験の後のグループトークや感想文でしっかりした反応があるようです。学校からのオーダーがあれば、こうした講演会は開催可能とのこと。横須賀でもこのような取り組みがあるのでしょうか。この辺りは今後、リサーチしていきたいと思います！

■sukappo 隊長・五本木愛の視点

「カナックがなくなる」というお話を聞いたのは、2016年3月中旬、サイトオープンを前にして、以前、園報で紹介した内容をサイトでも紹介してよいかとお伺いの連絡をした時のこと。かなり驚きました。

大人の発達障害について相談できる場所として、また当事者が集い、啓蒙にも力を入れていたカナックさんの存在をひとりの障害児の親として頼もしく感じていたからです。いささか急に感じる相談事業の終了について、残念に思う気持ちもありますが、今後はカナックさんの支援のノウハウが地域に広がっていくことでしょう。今回の取材でも、講演会の取り組みや相談の事例について、興味深いお話がたくさん。また取材させてもらいたいと思います。

